

東京バッハ合唱団 月報

[第 579 号 , 第 580 号] 2010 年 9 月 / 10 月合併号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替 : 00190-3-47604
Tel : 03-3290-5731 Fax : 03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO
Monthly Newsletter No.579, 580
September & October 2010

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

合唱団も燃え尽きかけた いちばん熱い夏, 2010 年

大村 恵美子

これは、現在進行形の話である。

昨 2009 年 8 月の第 5 回ヨーロッパ演奏旅行が、訪れた側、迎え入れた側の双方にとって、実質的に喜ばしい大成果を得たことは、長い合唱団の歴史のなかでもとりわけ輝かしいことだった。おおかたの危惧に対して、力強く資金目標を突破させてくださった、全国の支援者方の存在も、驚嘆するばかりだった。

しかし、もうすぐ目の前には、2012 年、合唱団創立 50 周年という大きな山頂（ピーク）が控えている。もう全力を出しきったからと、ここで旅行完遂後の大休憩をとるわけにはゆかない。2007 年の創立 45 周年・第 100 回記念定期《マタイ受難曲》では、団員数も、合同演奏に協力された方々をのぞいても、過去最大数に達していた（合唱参加者数 133 名、うち松山バッハ合唱団より 31 名。ちなみに、上記のほか、児童合唱 34 名、独唱 6 名、器楽 32 名、指揮 1 名で、出演者総数 206 名）。「日本語演奏によるマタイ受難曲」の演奏効果にも絶賛が寄せられた。

団員数の減少と運営の危機

その後、この「マタイ」ブームの反動のように、徐々に団員数の減少がはじまった。東京の参加者（約 100 名）のうち、以前からの団員は 60 名前後だったので、平常の教会カンタータ路線に復して、もとの数にもどっていくことは、過去の経験から想定されたことではあったが、世界同時不況に発する社会的展望の暗さ、若年層の身分不安定化などの社会的要因や、高年層の家族介護や自身の老齢化などの身近な問題も伝えられている。さまざまな事情が重なっていただろう。

2009 年のヨーロッパ演奏旅行が確定する段階では、その参加者は、これまでで最少の 25 名となった。副指揮者・橋本眞行氏の判断が、旅行実施反対とうち出され、そちらに賛同した団員の退団がつづいたことも、大きな原因だったかもしれない。彼は、旅行出発を見送ることなく辞任し、松山バッハ合唱団への専念にもどった。

じつは、来たるべき創立 50 周年（2012 年）の前後を、バッハの大曲の連続演奏でもりあげるといふ企画を、中心になって主張した面々の多くが、今は在籍していない。そのうちには、昨年の演奏旅行につまずいて志を全うで

きなった方もいらっしゃるって、残念なことである。演奏旅行反対だけでなく、やむを得ぬ社会的、あるいは個人的理由で、今は参加できずに、地団太を踏んでいらっしゃる方も多かろう。いずれにしろ、諸般の事情にとりかこまれて、最大のターニングポイントが、集中的に訪れたわけだ。

私は、日本全国の底辺をなす小企業主の立場で、人事をつくす覚悟をし、昨 2009 年 12 月 9 日のクリスマス演奏会（世田谷中央教会）今年になって 5 月 16 日の荻窪音楽祭（荻窪教会）そして 6 月 6 日の第 104 回定期演奏会は、新装成った石橋メモリアルホールでの久々の上演と、すべての公演実現に全力であたった。東京の演奏会場は、ますます予約がとれにくくなり、相当早い時期から予約準備をしていなければならなくなっている。団員数半減となった今でも、従来と変わらない額の支出は待ったなしである。

久しぶりにコンサートホールで行われた定演は、これまた最大級の評価と、数十万円の赤字を残して終わった。この間も、いちばんの急務である団員増加をめざして努力が続けられたが、効果は、目に見えるほどには至らなかった。

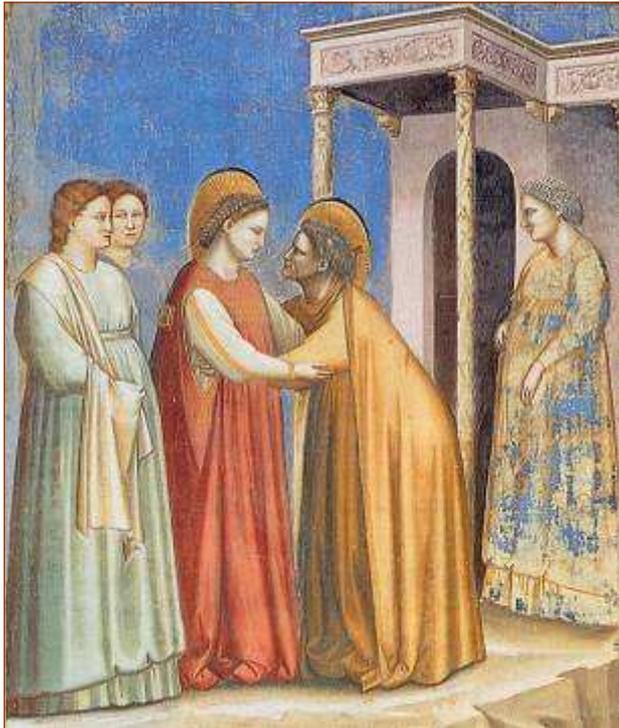
酷暑の中、《口短調》の集中練習

将来に対する布石も打たなければならない。8 月は、恒例なら、上旬に野尻湖合宿と現地での演奏会、あとは夏休みというスケジュールなのだが、それを返上して《口短調ミサ曲》の公開集中練習にきりかえた。新聞数紙に参加者募集の予告記事を載せてもらうことができ、十数名の新規参加者があらわれた。8 月全 4 回の土曜 13:30 から 17:30 の 4 時間の練習が、世田谷中央教会の好意あふれるご協力で、充実して行われた。

観測史上初と驚かれた、35 度前後の酷暑が夏いっぱい蔽うさなか、一挙に十名以上の同士をむかえて、小学生の団員も、定年後、あるいはご家族介護にあたる団員も、あらゆる困難を工面して、集中練習に文字どおり集中した。

この 4 回で、《口短調ミサ曲》全体に目をとおす大前提で、私もできるだけ能率よさを心がけて、準備をととの

えた。日頃から、この作品の、日本人による演奏例にいちばん欠けていると私の痛感する、理念のなさ、キリスト教文化の地盤への無頓着さ、バッハの構造的な内容への無理解さ、つまり、つるりと表面をなでて最後まで声だけを張りあげとおす安易さ、これには陥らないようにと、今回はとくに各曲ごとの主題の明確化を徹底させ、むしろ演奏するには覚えにくく厄介な、自由部分、経過句、ディヴェルティメント的部分は、時間をかけずに、今後の練習へと丸投げしたのである。ピアノのレッスンなどにも感じるのだが、1 ページごとの譜読みにこだわっ



第 105 回定期演奏会 チラシの挿画

「マリアのエリサベト訪問」
(ジョット画、1310年代、パドヴァ・スクロヴェーニ宮)

「カンタータ第 147 番」は、マルティン・ヤーンの有名なコーラル「Jesu, meiner Seelen Wonne」イエス わが心の愉しみ（なお「主よ、人の望みの喜びよ」の表題は、英語圏での訳語から日本語に重訳されて流布したもの）を含む、バッハ作品のなかでももっともひろく親しまれている名曲の 1 つ。「マリアの訪問の祝日」(7月2日、固定)のために作曲されたものです。

この祝日に朗読される聖句(ルカ 1:39-56)には、マリアがエリサベトを訪ねて挨拶すると、この声を聞いて、エリサベトの胎内の子が踊った、と書かれています。高齢であるにもかかわらず子を身ごもった、義人ザカリアの妻エリサベトは、マリアの縁者で、胎内の子は後の洗礼者ヨハネです。

エリサベトがマリアに言います。「あなたは女の中で祝福された方、胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまが、わたしのところに来てくださるとは！あなたの挨拶の声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んで躍りました。主がおっしゃったことは必ず実現する、と信じた方は、なんと幸いでしょう。マリアの胎にもすでに子、すなわちイエスが宿っていました。

ジョットの絵には、まさに上の情景が描かれています。この場面の後に、「マニフィカト」(わたしの魂は主をあがめ)で始まる「マリアの讃歌」がつつきますが、それは別の機会に。

て、曲全体をつかむ意欲が、わが国の演奏訓練にはとかく不足している、というのが長年の私の不満である。

初めての練習時に、進度のあまりのスピードにショックをうけ、暑気のはげしさも加わって、頭痛を起こし、早退された方があった。私にはむしろ、このほうが想定内と思われたのだが、ほぼ全員がそれを乗り越えて、時間ぎりぎりまでハイテンションの進行につきあってくださった。この曲は、創立 25 周年(1987 年)の初演以来 4 回目で、経験のある団員も多く、そのおかげで初心者の方々も、細部はともかく、全体像の把握は比較的容易だったように思える。「もう、美しいハーモニーに聞きとれて、歌うのを忘れがちでした」という方もあったが、お世辞は抜きにしても、好ましい学び方だったと、私は思う。小さな子どもは、耳がよければ、楽譜など読めなくても、ひとの歌うのをまねて、すぐに覚える。そのくらいの心の開き方、集中力、同化力、可塑性、これが芸術教育の根本である。

ドイツの少年たちの強靱さに圧倒

このようにして、8 月のヒートアップ状態は、未曾有の困難のなかに浮かぶわが合唱団を、みごとにまとまらせてくれた。9 月には、もう通常練習にもどる。2011 年 1 月 9 日の第 105 回定演を間にはさんで、2011 年 11 月予定の《口短調ミサ曲》にまで、このエネルギーを高めてゆくことができるか、これが目下の課題となる。財政的にも、まだまだ苦しさから脱却する道は遠い。

8 月 22 日 19 時に、原宿教会で、フライブルク大聖堂少年合唱団(約 60 名)の演奏会があり、私たちも 20 名で訪れた。かれらの創立 40 周年記念演奏旅行の冒頭の公演で、「一服の清涼剤」のしあわせに浸った、などの感想が期待されそうところだが、私は、昨年訪れた、当のフライブルクの少年たちには、そんな優雅な気持ちはもてなかった。なんと強靱な人たちなんだろう、という圧倒的な思いが強かったのである。

何よりもバッハをはじめとする、天を衝くような伝統。それを脈々と後世に伝えてきた社会文化。日本人である私たちを、見劣りするものとみる立場を、私はとらない。ドイツ人が強く、高いのなら、同じ人類の一員である私たち日本人も、それを享受し、また創造しうるのである。そこに上下関係があるのではない。長旅をものともせず、はっきりと表情のある顔で闊歩してくる、この少年たちの姿は、同じ人間として、フライブルクを歩き、シュトゥットガルトをめぐる、私たち自身の顔つきでもありえたのである。

すなわち、良いものを認めよう。斜にかまえず、真っ向から目標に向き合おう。「もうダメ」と音を吐かず、生きとし生けるものとの共感を重んじ、感謝し、またこちら相手も深く信じて、日々をつくってゆこう。これこそが、現状打開、苦境脱出、目標到達への唯一の道にちがいない。[了]



フライブルク大聖堂少年合唱団の来日公演。右端で花束を持つのが指揮者のボリス・ペーマン楽長（2010年8月22日，原宿教会。撮影：千葉光雄・団員）

いつまでも、ともに歌い・語り・飲むために

荒井 せつ子（団員：ソプラノ）

ドイツ・フライブルク大聖堂少年合唱団が来日し、日本各地で演奏会が開かれるなか、8月22日の原宿教会での演奏会に行ってきました。昨年のドイツ演奏旅行からはや一年がたちましたが、フライブルクと聞いただけで胸がキュンとなるくらい、あの演奏旅行にはたくさんの思いが詰まっています。

参加者がなかなか決まらず、20人そこそこではたして合唱が成立するのか、費用をまかなうための募金が目標額までいくのだろうか、目標に達しないときはどうするのか、そんな思いが合唱団内に渦巻き、それは団の活動そのものへの不信、不満となり退団者も出ました。それでも旅行参加者と留守をまもる団員たちは強い意志をもって努力し、一丸となってすべての苦境を克服して、あの演奏旅行を成功させることができました。

その後は折りあるごとに団員募集をかけ、去る6月6日には、2年ぶりでオーケストラつきの第104回定期演奏会を、新装なった石橋メモリアルホールでもつことができたのは大きな喜びであり、今後への励みとなりました。

現在団員数は休団者を含めて40名弱ですが、この人数で毎回200万円を超える定期演奏会をまかなうのはかなり厳しい状況です。団員はもちろん、後援会員様にもたびたびご支援をお願いするのはこのような状況だからです。日本だけでなく世界的な経済不況に加え、創立50周年を迎えようとする団の団員も、現役を退いて年金生活者が増え、趣味の合唱にあまり大きな出費はできない者も増えています。団員減少は団の運営そのものにも直接影響し、練習会場費、ピアニスト謝礼などを支払うと指揮者への謝礼は遅配が続くという危機的状況にあります。

そんな中であっても、現在、来年1月9日の第105回定期演奏会に向けて、カンタータ111番、68番、147番、モテット6番の練習と、これに加えて、来年11月に予定

している世界初演、日本語による《口短調ミサ曲》も並行して譜読みをするという、少々詰め込み気味ではあっても、すこぶる積極的な練習をしています。団員があと20名も増えれば、すべてが解決するという希望をもっているからです。

私の人生はこの団に加わったことでどれほど豊かなものになったことか。それまであまり聴くことも歌うこともなかったバッハの音楽を、宗教的な深い解釈をいただきながら、プロの演奏家とステージで奏で、またドイツへの演奏旅行（過去3回参加）では、音楽ばかりかヨーロッパの文化に広く触れる機会を与えられ、ともに歌い、語り、飲む、良き友と出会うことができました。

現在の団員は、人間的にも音楽的にも素晴らしい方々ばかりです。団員全員が知恵を出し合って協力し、団員増加に努力し、そして何よりも、日本語でバッハを歌うユニークなこの東京バッハ合唱団のメンバーと、いつまでも歌っていけるようせつに願っています。



DVD「森井眞 自由と尊厳を語り続ける歴史学者」

加藤 剛男（団員：バス）

このたび「森井眞 自由と尊厳を語り続ける歴史学者」がDVDとして発売されました（制作：NPO法人東京シューレ大学映像プロジェクト。販売：株式会社創造集団440Hz、電話03-5155-9801）。

このDVDは、今年4月23日にシューレ大学^(*)で開催された講演「森井眞さんに聞く～人間の尊厳・戦争と平和」を中心として編集されたもので、自らの戦争体験を通じて平和を守ることを訴え続けてきた、明治学院大学元学長の森井眞氏（当合唱団団友、ジャン・カルヴァン研究家・歴史学者）が、今この時代に何が大切なのかを、映像を通じて熱く語るドキュメンタリーです。

ご自身の語りと編集のナレーションとによって、ごく簡単に内容をご紹介します。

森井氏は1919年生まれ。第1高等学校の3年間の寮生活で、3人の親友を得、「人間とは何か」「生きるとは何か」をともに考え、青春の喜びと悲しみを分かちあっていました。しかし1943年12月、召集令状を受け、高射砲部隊へ配属され、自由のない世界、規則づくめの軍隊

生活に入れられました。「考える、迷う、悩む、選ぶことができない自由のない世界」まさに暗黒の世界でした。そして 1945 年 8 月 15 日の終戦を迎えます。

親友たちに 1 日も早く会いたかった。彼らは将来に夢をもち、志を持ち、希望に満ちていました。しかし、3 人とも戦死していたのです。人間それぞれがかけがえのない人生を生きている。能力、国籍、民族、人種、宗教、性別、障碍の有無、年齢等あらゆる違いを超えて、かけがえのない人生を生きている。それが、戦争によって奪われ、壊されてしまう。戦後、森井氏は、自らの体験から 2 度と戦争を起こさせないという誓いをたて、平和運動のリーダーとして活躍されることとなります。

森井眞氏は、フランス・ストラスブールへ留学し、宗教改革史・フランス史を学ばれます。1982 年明治学院大学の学長になり、国際平和研究所の創立に関わられました。この研究所は、世界の恒久的平和を創ることを目指しています。1988 年 9 月に昭和天皇が健康悪化となった際、各大学にも記念祭や大学祭の自粛要請がありましたが、明治学院大学では学長声明を出し、「日本は、天皇の名において侵略戦争をやった事実を忘れてはならない」と訴え、「戦争は精神の自由を奪う、自由が奪われたら人間でなくなる」と主張されました。

このドキュメンタリーでは、自由というかけがえのない尊さ、あらゆる違いを超えて、すべての人間の尊厳を重んじるということ、この 2 つの問題の重要性に気づく人が、世界でひとりでも多くなれば、それが、世の中を動かす力になる、と森井氏は、終始熱く語っています。

3 歳で終戦を迎えた私は、戦争のもたらす無残さ、悲惨さを体験しておりません。涙ながらに訴え続ける森井眞氏の体験と言葉を通じ、歴史に学び、2 度と戦争を起こさせない道を選択することを、強烈に心に植え付けられました。

*) シューレ大学 : 不登校の子どもたちが集うフリースクール「東京シューレ」を母体として、1999 年から活動を開始。国が認めた正規の大学ではなく、市民がつくり出した大学で、約 40 名いる学生は「学歴よりも、自分のやりたいことを自分のペースでやれることのほうが大事」と、のびのびと自己形成をしている。

第 105 回定期演奏会 教会カンタータ名作選

< チケット発売開始 >

[入場料] 前売り 3000 円, 当日売り 3500 円
事務局に、お申し込みください (いずれも全自由席)

[日時] 2011 年 1 月 9 日 (日) 14:00 開演
[会場] 石橋メモリアルホール

- ・カンタータ第 111 番《み心は つねに成し遂げらる》
- ・カンタータ第 68 番《み神はこの世を かく愛したまえり》
- ・カンタータ第 147 番《心と 日々のわざもて》
- ・モテット《頌めよ主を 世の民こそぞりて》BWV230

光野孝子(S), 佐々木まり子(A), 鏡 貴之(T), 新見準平(B)
草間美也子(Org), 大村恵美子(Cond)
東京バツハ合唱団, 東京カンタータ室内管弦楽団

2010 - 2011 シーズンの活動予定

< 9 月 >

後期の練習開始 (両会場とも)

9 月 4 日 (土) 15:30 - 17:30、世田谷中央教会
6 日 (月) 18:30 - 20:30、目白聖公会

【練習スケジュール】(両会場とも)

前半 50 分 : 《口短調ミサ曲》 これより第 3 ステージ
後半 60 分 : BWV111、BWV68、BWV147、BWV230

< 10 月 >

【練習スケジュール】(両会場とも)

前半 50 分 : 《口短調ミサ曲》
後半 60 分 : BWV111、BWV68、BWV147、BWV230

< 11 月 >

【練習スケジュール】(両会場とも)

前半 50 分 : 《口短調ミサ曲》
後半 60 分 : BWV111、BWV68、BWV147、BWV230

< 12 月 >

12 月 5 日 (日)

日本キリスト教団・世田谷平安教会主催の「クリスマス音楽会」に客演

・カンタータ第 147 番《心と日々のわざもて》(抜粋)
・モテット《頌めよ主を 世の民こそぞりて》(全曲) など
会場 : 世田谷平安教会 (世田谷区下馬 2 - 41 - 5)
出演 : 内山 亜希 (ピアノ) 東京バツハ合唱団 (合唱)
(他、詳細は計画中)

開演 : 14:00

【練習スケジュール】(両会場とも)

BWV111、BWV68、BWV147、BWV230
12 月中の《口短調ミサ曲》の練習は中断します。

12 月 25 日 (土) 通常練習 (世田谷・練習納め)
27 日 (月) 通常練習 (目白・練習納め)

< 1 月 > 2011 年

1 月 3 日 (月) 合唱練習 (目白, 18:30 - 20:30)
7 日 (金) オケ合わせ (目白, 18:00 - 21:00)
8 日 (土) オケ合わせ (目白, 18:00 - 21:00)
第 105 回定期演奏会「バツハ教会カンタータ名作選」
9 日 (日) 本番 (上野・石橋メモリアルホール)

新年の練習開始 (両会場とも)

10 日 (月・祭日) 18:30 - 20:30、目白聖公会
15 日 (土) 15:30 - 17:30、世田谷中央教会

【練習スケジュール】(両会場とも)

《口短調ミサ曲》 これより第 4 ステージ (冒頭より)
新規団員が合流します。

< 2 月 ~ 7 月、9 月 ~ 10 月 > 《口短調ミサ曲》単独練習

< 11 月 > 《口短調ミサ曲》(50 周年記念企画 1)
日時・会場は、近日中に決定します。

本番終了後は、《クリスマス・オラトリオ I III》(記念企画 2)、《マイ受難曲》(記念企画 3) の練習が始まり、かくして、合唱団創立 50 周年の年、2012 年が明けます。お祈り!